

草津白根山（白根山（湯釜付近））の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

本日（22日）実施した現地調査によると、湯釜の北側噴気地帯の噴気量は少ない状態でした。赤外熱映像装置による観測では、湯釜北側の熱異常域に特段の変化は認められませんでした。白根山（湯釜付近）の火山性地震は本日11時台をピークに、多い状態が続いています。引き続き、白根山（湯釜付近）では、火山活動が高まっていると考えられ、今後、湯釜火口から概ね1 kmに影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

【防災上の警戒事項】

湯釜火口から概ね1 kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒して下さい。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意して下さい。

活動概況

本日（22日）実施した現地調査によると、湯釜の北側噴気地帯の噴気量は少ない状態でした。赤外熱映像装置による観測では、湯釜北側の熱異常域に特段の変化は認められませんでした。

白根山（湯釜付近）では、昨日（21日）19時頃より湯釜付近を震源とする火山性地震が増加し、振幅の大きな地震も発生しました。11時台以降やや減少したものの、引き続き、多い状態が続いています。低周波地震も、ときどき観測されています。

21日から湯釜火口付近の傾斜計で観測されていた変化は、本日12時頃に反転しました。

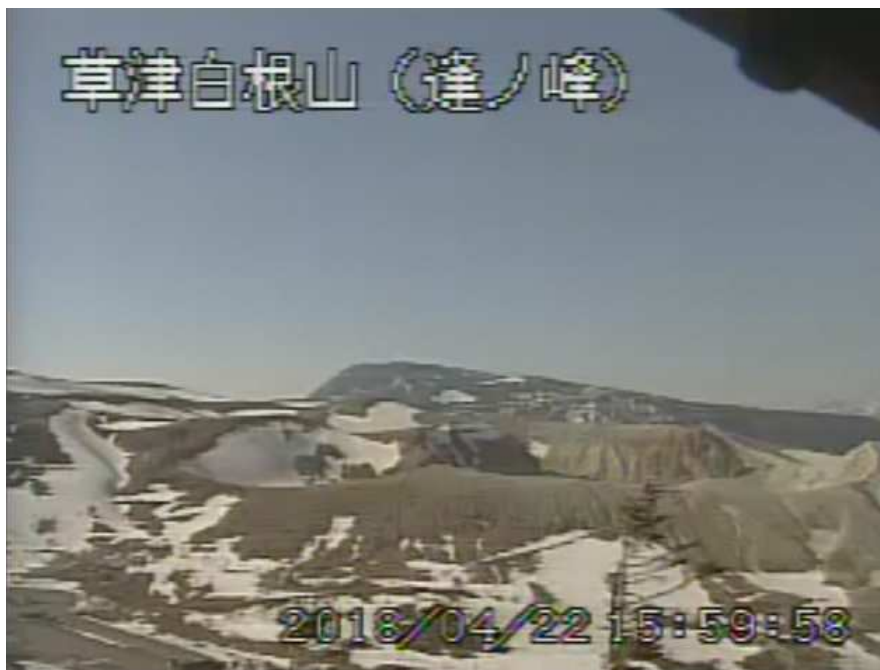


図1 草津白根山(白根山(湯釜付近)) 湯釜付近の状況(2018年4月22日)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧できます。

この資料は気象庁のほか、東京工業大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号 平 29 情使、第 798 号)。

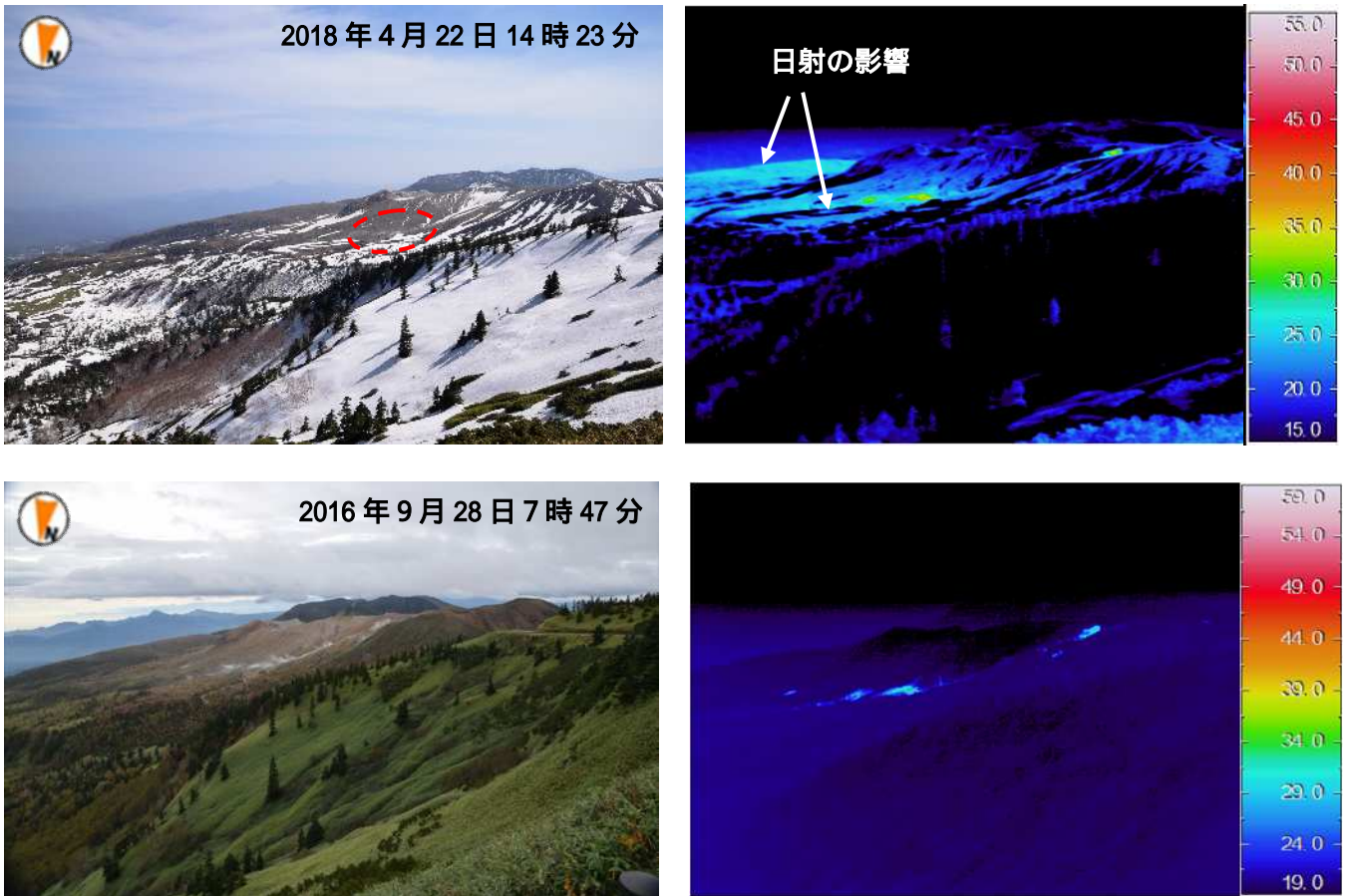


図 2 草津白根山 湯釜の北側噴気地帯の状況
前回（2016 年）と比較すると、図中赤丸の湯釜の北側噴気地帯の噴気量は少ない状態でした。
湯釜北側の熱異常域に特段の変化は認められませんでした。



図 3 草津白根山 現地調査地点

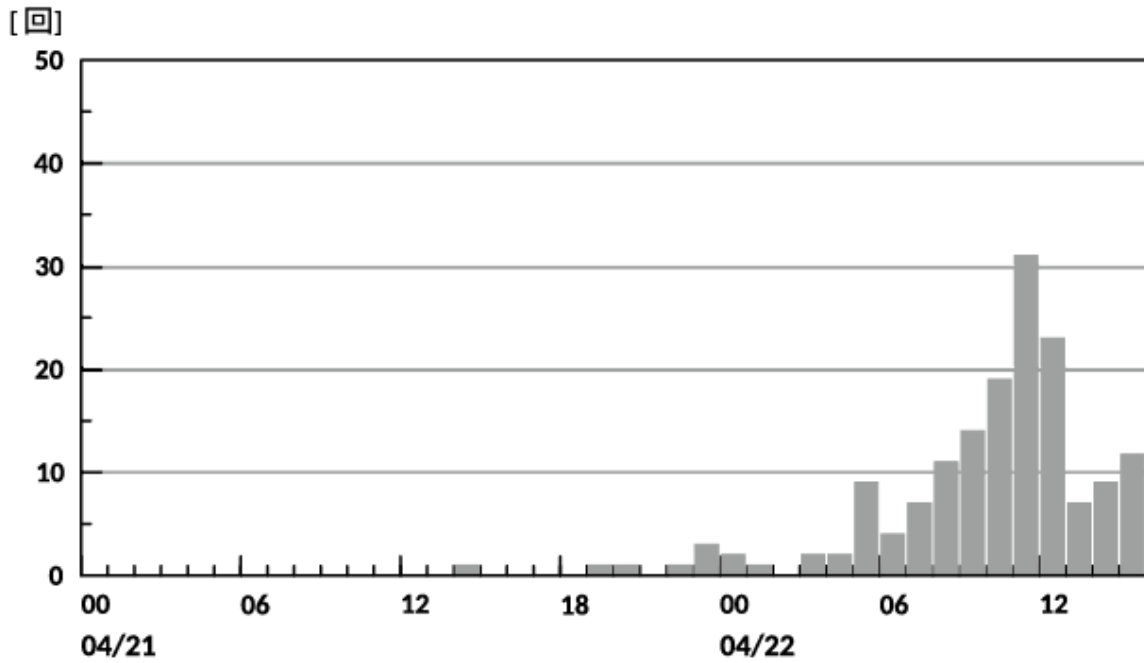


図4 草津白根山 火山性地震の時間別発生状況(速報値)(2018年4月21日00時~22日16時)
白根山(湯釜付近)の火山性地震は、22日11時台をピークに多い状態が継続しています。

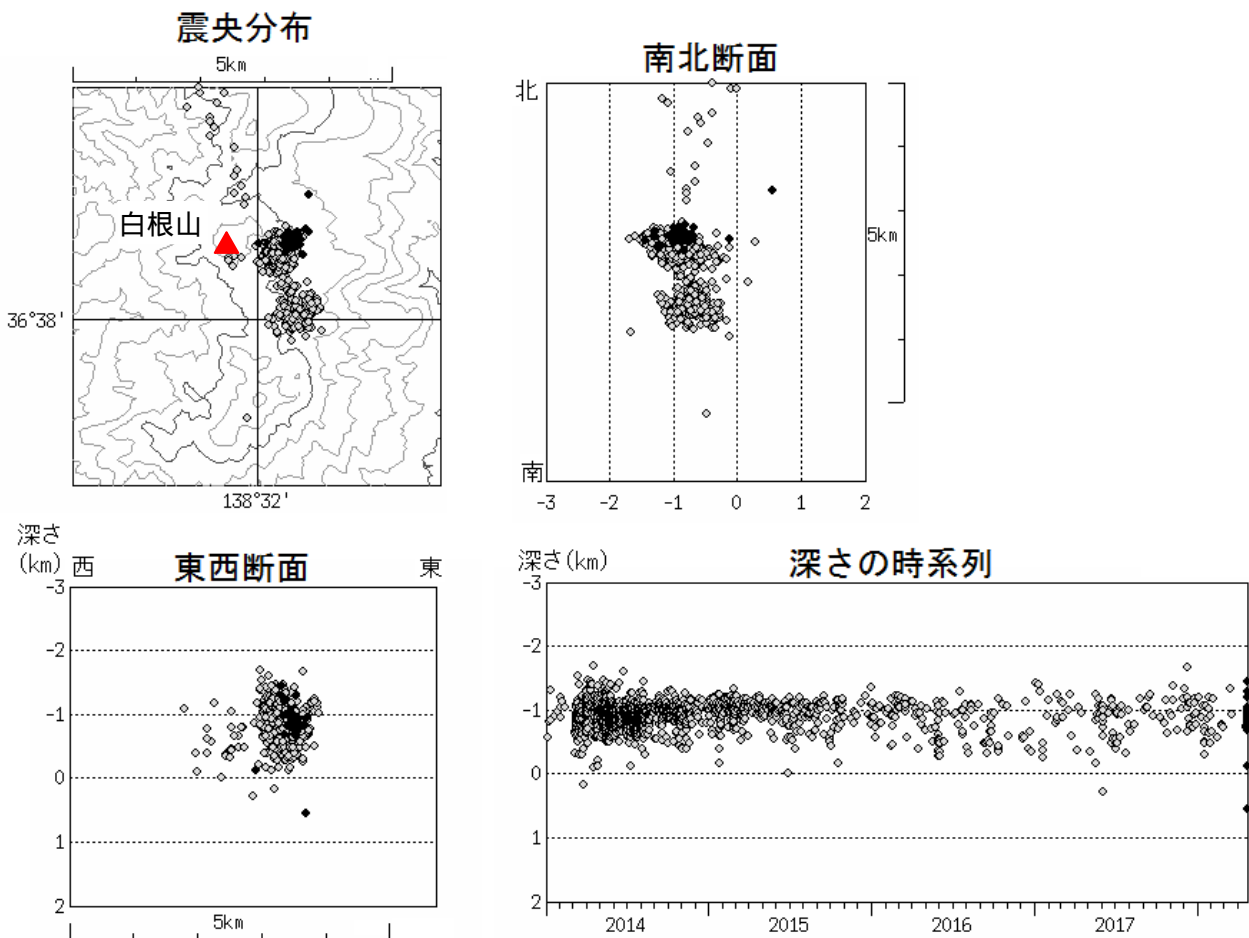


図5 草津白根山 震源分布図(2014年1月1日~2018年4月22日16時)
: 2014年1月1日~2018年4月20日 : 2018年4月21日~4月22日16時

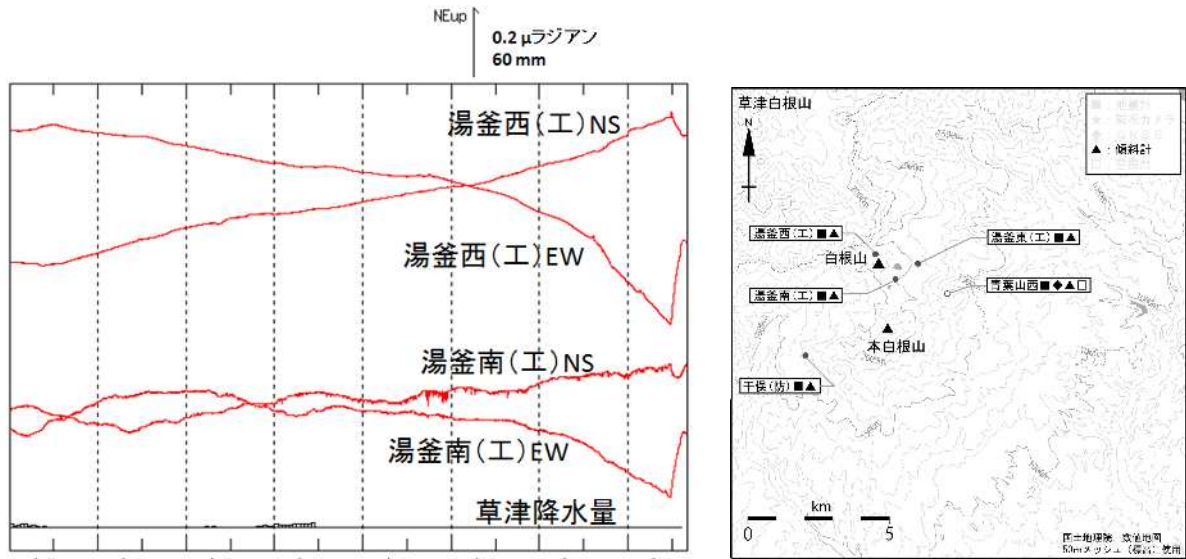


図6 草津白根山(白根山(湯釜付近)) 傾斜計の状況(2018年4月15日~4月22日16時)
(工):東京工業大学
湯釜火口付近の傾斜計で観測されていた変化は、22日12時頃に反転しました。

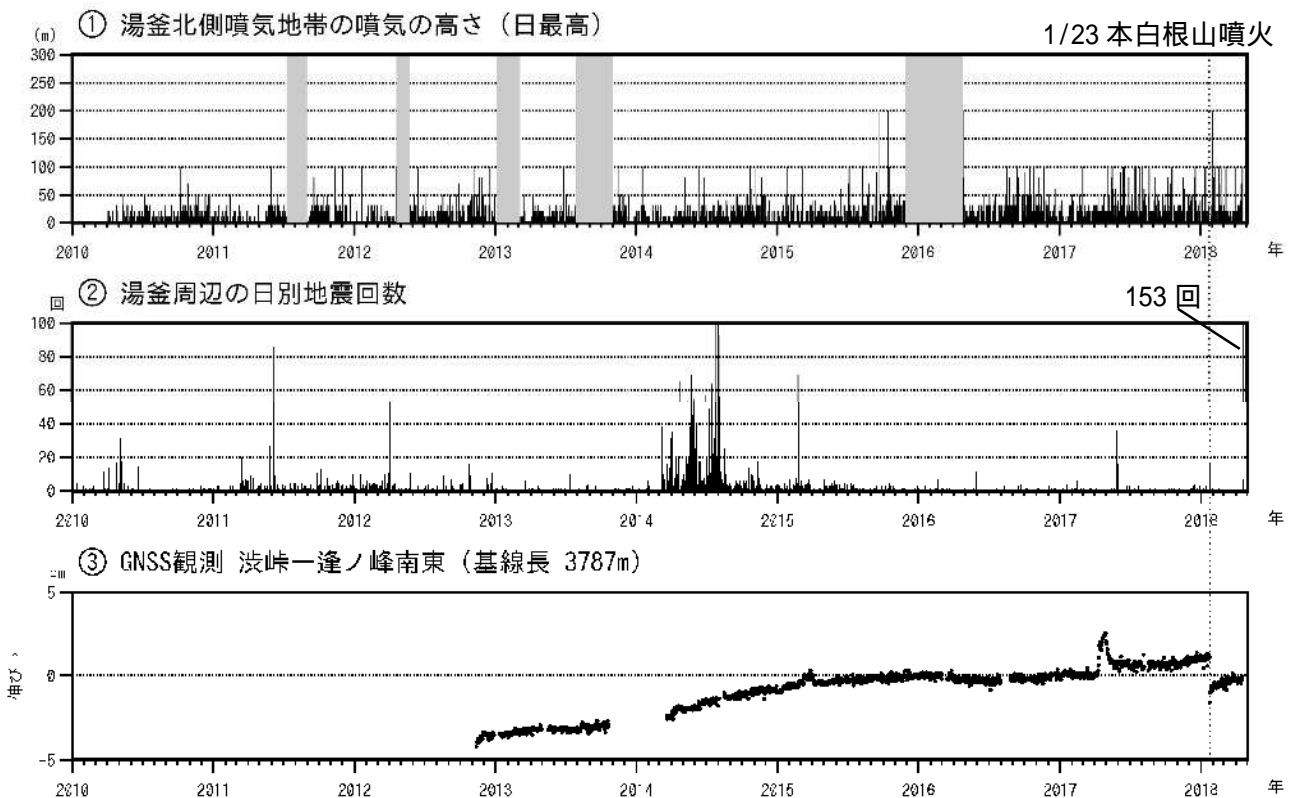
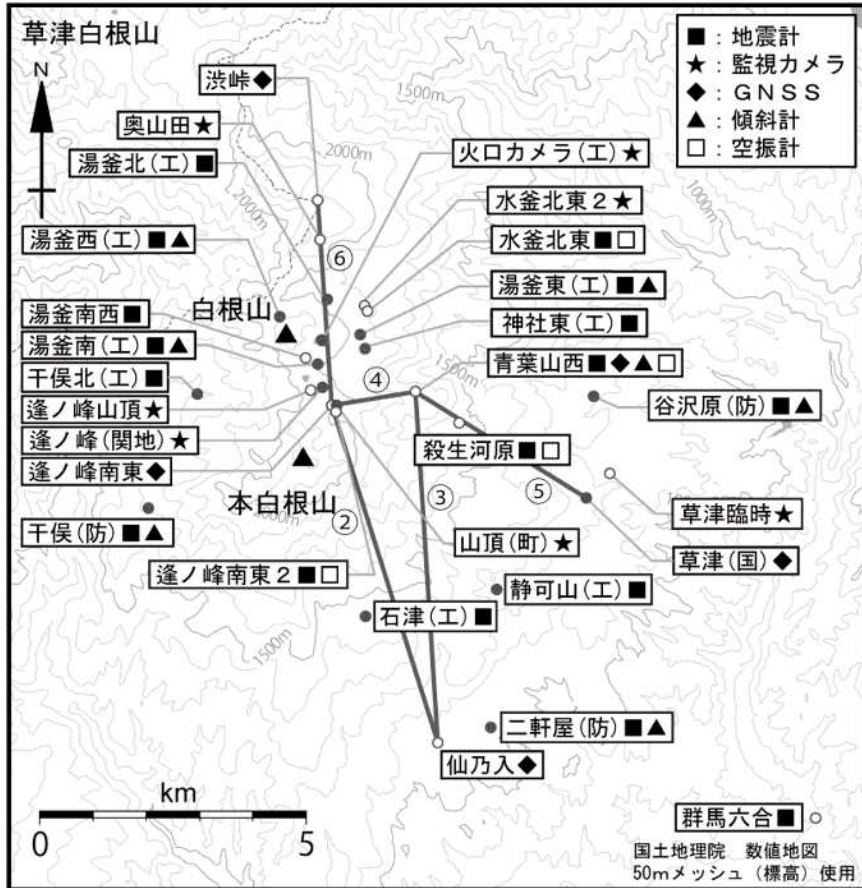


図7 草津白根山(白根山(湯釜付近)) 火山活動経過図(2010年1月1日~2018年4月22日16時)
の灰色部分およびの空白部分は欠測です。
は図8のの基線に対応しています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(工): 東京工業大学、(関地): 関東地方整備局

図 8 草津白根山 観測点配置図